

研究区分	教員特別研究推進 国際共同研究・国際交流の促進
------	-------------------------

研究テーマ	静岡市内におけるアジア向け茶観光商品促進による地域活性化				
研究組織	代 表 者	所属・職名	静岡県立大学経営情報学部・准教授	氏名	カウクルアムアン・アムナー
	研究分担者	所属・職名	タイ・メーファールアン大学 茶・コーヒー機関・助教授	氏名	チュアムチャイタラクン・ピヤポン
		所属・職名	タイ・メーファールアン大学 経営学部・講師	氏名	パートン・アディタヤ
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	静岡県立大学経営情報学部・准教授	氏名	カウクルアムアン・アムナー

講演題目
静岡市内におけるアジア向け茶観光商品促進による地域活性化
研究の目的、成果及び今後の展望 訪日アジア人観光客は増加しているが、実態として静岡市のお茶ツーリズムへの呼び込みは不十分である。そのため、アジア人観光客をターゲットとしたお茶観光商品の開発が、静岡市のお茶産業活性化の課題となっている。本研究は静岡市におけるタイ人観光客を中心としてのアジア向け丸福製茶のティーツアーを発展させる。オクシズと若松町周辺にアジア人観光客を誘致するための茶観光商品に関するガイドラインの策定を提案する。 オクシズ・若松町が2024年12月14日にタイ・メーファールアン大学の大学生向けに実施した日帰りモニターツアーの評価結果に基づき、茶畑で景色を眺めながらの食事や茶観光活動の提供、多言語ガイドブックなどの資料作成、ツアーをリピートする観光客のためにカスタマイズツアーの検討を提案した。チェンマイを中心にタイ北部のカフェに配布されたPRポスターでは、モニターツアーのプログラムを宣伝した。アジア向け丸福製茶ティーツアーと茶製品ニーズについてのアンケート調査及びインタビュー調査は2025年3月にタイの大学と共に実地した。アンケートやインタビュー項目ではモニターツアーの結果やコメントなどを活用した。アンケート調査はお茶と食品関連ビジネスに焦点を当てた2つのプログラムの参加者45人を対象に実施した。第1グループは、2025年3月4日にチェンマイ県のメージョー大学で行われた美食茶観光に関する特別講義に出席した25人の参加者で構成された。第2グループは、2025年3月12日から14日まで静岡で開催されたフードラリートourに参加した20人のタイ人起業家で構成された。参加者のほとんどは女性（66.7%）で、年齢は30～39歳（31.1%）だった。大多数は週に2～5回お茶を飲むと回答した（40%）。お茶の好みについては、参加者が緑茶（57.8%）と抹茶（57.8%）を好んだ。 PRポスターで強調された丸福茶ツアーに関しては、参加者の71.1%が、提供されるすべてのアクティビティに興味を示した。また、PRポスターに記載されていない観光活動としては、静岡県内の城や寺社などの史跡を訪れる（71.1%）、フェリーに乗って駿河湾と富士山の美しい景色を楽しむ（64.4%）、魚市場で地元の魚介類を体験する（60%）といった傾向が強いことが分かった。お茶製品のお土産については、参加者は抹茶（73.3%）をはっきりと好み、次いで煎茶（48.9%）、麦茶（22.2%）が続いた。お土産として抹茶が好まれる傾向が顕著であることから、抹茶製品の市場が有望であることが分かった。 インタビューに関しては、カフェのオーナーとフードラリートourプログラムの参加者の2つのセクションからなるフォーカスグループを実施した。その結果、丸福茶ツアーは、お茶関連のビジネス、リピーター、短期学習コースに参加する交換留学生をターゲットにすることが示された。ツアーでは、お茶関連の体験や製品を含む、多様なアトラクションやアクティビティを提供する必要がある。